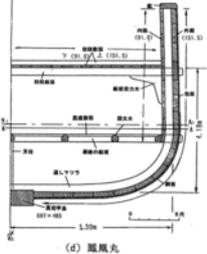


「ふね遺産」氏名：山本詔一（ふね遺産実行委員会の平山次清氏と打ち合わせ済）

No.(*)	内容	備考
1. 1. 対象船名 「鳳凰丸」 (非現存船)	幕末建造木造帆装軍艦「鳳凰丸」—大船建造禁止解禁後我が国の技術役人と舟匠の創意により建造—	非現存船。(全長 36.4m、幅 10.6m、深さ 4.18m) 洋式帆装木造軍艦。絵図・資料が残る。
2. 対象物の 作成・存在時期	嘉永 6 年 (1853) 年建造開始、嘉永 7 年 5 月 (1854) 年竣工。建造後函館戦争に榎本艦隊の輸送船として参加し、後に明治政府所有。	
3. 現状 (写真添付)	現存しないが絵図・資料が残っている。 	 長さ:20 間、肩幅:5 間、深さ:3 間 1 尺 5 寸(文献 4) 推定断面図(参考資料をもとに宝田推定)
4. ふね遺産 基準の該当項目(**)	【認定対象】(1) 船舶 (4) 事象 【認定基準】(7) 初めてのもの	
5. 歴史的・ 工学技術的意義	・大船建造解禁後、我が国で 最初に竣工した洋式帆装軍艦 ・浦賀奉行(技術官僚であった)の監督のもと船大工が、見分した洋式帆船をもとに、建造 ・図面は残っていないが、構造・寸法・用材などについては詳細文書が残っており貴重 ・現在の木船構造規定に合致する との研究論文もある	・急速建造が必要であったため一部和式技術も使用 ・塗装として 密陀僧(一酸化鉛) を塗っている ・船底には銅板を貼った ・接合にボルトは使用せず和釘使用 ・戦闘には参加していないが輸送船としては実用された
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	1 次資料的なもの 1) 「鳳凰丸絵図」東大史料編纂所蔵 2) 「南浦書信」東大資料編纂所蔵(原本は井戸達夫氏所蔵のものを編纂所が書写)浦賀奉行戸田氏栄が江戸在勤の浦賀奉行に宛てた書簡集。鳳凰丸建造の経緯などがわかる。 3) 浦賀近世史研究会編:南浦書信、未来社、2002 年。2) を活字化し、注などを加え出版 27] 鳳凰丸御造立より御見分済迄之書類;幕末浦賀軍艦建造記、横須賀開国史研究会(部材記述あり) 4) 浦賀資料(慶應義塾図書館所蔵)→新横須賀市史 資料編(近世 II、2005 年発行)に活字化収録→鳳凰丸関係は浦賀資料第 5 に収録。板材や寸法の記述あり。 2 次資料的なもの 5) 安池尋幸;「弘化三年幕府目付の近海見分と軍艦建造計画—天保・弘化期の幕府海防政策に関連して—」横須賀市博物館研究報告(人文科学)第 29 号(部材寸法あり) 6) 日木近世造船史付図(明治時代);原害房(断面の形あり) 7) 安達裕之:異様の船—洋式船導入と鎖国体	制、平凡社選書 157、1995 8) 安達裕之:国産洋式船の魁—鳳凰丸・昇平丸・旭日丸、横浜 Vol. 17(伝統のまち—横浜金沢)神奈川新聞社、2007 9) 寶田直之助:幕末における我国建造の洋式帆船に関する一考察(55 頁)、2002. 12. 16 付けであり、海事技術史研究会誌 17 号、2016. 11 に収録されている。 10) 寶田直之助:幕末の洋式帆船第 1 船鳳凰丸の評価について、よこすか海洋シンポジウムにて講演(原稿は 2008 年 12 月 15 日付であり海事技術史研究会誌、第 16 号、2015 に収録) 11) 平山次清:幕末・明治のふね遺産候補、日本船舶海洋工学会、講演会論文集、2017 年 5 月 12) 平山次清:幕末に建造された洋式帆船「鳳凰丸」と「ヘダ」の比較—ふね遺産(非現存船)の候補として、日本船舶海洋工学会、講演会論文集、2018 年 5 月